

# 寺崎組新聞

第百二十七号

発行所 寺崎組新聞社

## また行ったぜ！東北 組会IN岩手 リベンジ編

第165回組合報告

さて、今回の東北組会、去年に懲りずまたもや参上りました。昨年の悔しい思いを払拭するべく、にわか改良を施したレイド号を旅の友に岩手へと挑んだ内容と、今回もいろいろあった東北組会についてご報告させていただきます。

まず、にわか改良の内容は？イリジウムプラグ、バッテリー交換、マフラー耐熱塗料塗布、オイル交換、エアフィルター交換、テネレのスクリーンとETC移植等を手掛け約3年ぶりに火を入れました。試走は時間がながく、当日ぶっつけ本番の様子を見ながら、あとレイドの感覚を思い出しながら16日昼過ぎ自宅を出発。なんとも問題なく快調に東北を都度、東北道をひた走る。今回は前泊で福島は安達太良高原の無料野営場にて一人宴会。5時起床。集合時間までには時間があがるため、国道4号を北上し時間を目指す。去年も同じように、ちょうどこの時期は黄金に輝く稲穂が頭を垂れ、びっしりと4号線の両脇に美しく広がっており、米の香りの中をひたすら北上するのであります。

集合場所に到着し、1番はXR三倉さん。煙草をふかしながら話をしていると、DRG三浦さん、なんとフェリーに乗って参加のXR4000りようふうさん、飯坂温泉の旅館で前泊したWR地下鉄さん、バンクギみの車を一関にデポし、床屋集合時間と余裕があったため、床屋に行くとこころ1時間待たされたジェエトル尾形さんが到着。最後の組長を待っていたところ、とても古そうなバイクに乗り普通の格好をした地元の方々と、りようふうさんが集合場所にきた前に、立ち寄ったコメリにて出会った方らしく、すでにそこで20



バイクのメンテナンス中

30分話しをしたのち、組長に目お会いしたくなり集合場所に来てしまったそうです。いろいろ乗り回している感じがしたが、エンジンからは酷くカタカタ音が鳴り響き、オイルはダダ漏れ、エンジンマウントのボルトが1本無く、17万キロも走っている強者である。にわか整備士の私でさえも整備したくなる可哀そうなバイクでありました。なんだかんだ話しをしていて、組長のバイクがバンクして遅れますとの連絡。まあ、組長のバンク修理なんてすぐだから！と、話も尽きた頃遅れること早や1時間。結局地元のパハ乗りの方は待ち切れずに帰宅、空いてしまったようです。タイヤチューブと地図と嫁さんは新しいものが持ってきたツーリングマップルは97年と書いてあった。

闊歩するのであります。買い出しを済ませ、15時頃スーパーを出発！と思いきや、ゴ三浦さんザツクを背負わずバイクに乗車。うっかり忘れるところでした。いつものようにどこを走っているのかわからぬまま、黄金に色づいた田園風景の中を荷物満載したバイクの列は快走し、山間部へ入っていく。16時過ぎ林道の大きな鉄塔の下にあるちよぎ林道の大きな鉄塔の下にあるちよぎ。ちなみに、組長は昨日もこの野営地としており、他の場所は今回の台風や林道整備に予算を回せない岩手県情勢のためか、道が荒れてしまい今回は断念したそうです。到着後、各組員それぞれ荷物と荷物を解き、雨天予報に備えテントを車座に配置し、雨でも寝可能なタープを考慮した陣形となり準備は完了。雨が降り出しても、タープがあれば宴が出来る！これが寺崎組である。いつものようにみんな乾杯、野営地への挨拶を済ませ、つまみかじゅへのご挨拶を済ませ、楽しい宴の時間が始まり、盛り上がる。すると、予報通り、ポツリポツリと落ちてきた長い木の枝を柱にして、柱の先端にはシートに穴が空かないよう、空缶を刺し屋根の完成。何事も無かったかのように宴は完成の中再開する。そしてこれもいつものように、眠くなったら寝る人、お腹がすいたら食べる人、歌いたい人は歌う人、飲みたい人はとことん飲む人、自分だけが特に強制することもなく、集団がやりたいことをやれてしまう集団、それが寺崎組である。実に面白い。その日は眠かった。途中退席し寝る人になりました。翌朝、雨は小雨になっていったが、シート屋根の下で朝飯とパッキングを濡れることな朝の行はは屋根から離れた場所へ各々転々と傘とスコップを持ち、カッパを着て、散っていくのであった。

二日目の行程は、FM佐藤さんと合流する目指し、集合場所のスキー場を調達し長距離移動で遠野へ向かう予定。みな準備は整い、雨装備で出発する。濡れた林道・轍・水溜りに気を配りながら前進する。去年の岩手と比べれば雲泥の差！レイド号に改めて感謝し、走りながら自然とヘルメットの中で笑顔になり、なんか喋っていた。今思うと、アドレナリンがダダ漏れしていたようにある。そんな中、着々と高さを上げると視界が急に開け山の頂上上がった。すぐに下りが来るのか？と身構えていると、そこはなだらかなほぼ直線の尾根道となっていた。林道の両サイドには前沢牛運の広大な放牧地となり、左右の眺望がすばらしい気持ちのいい林道です。ダート終点の眺めのいいところで、ちょっと休憩。もう少し天気が良ければ、十分景色は良かったのでわがままは言いません。

mほど先にある湧水場所へ向かって行った。ほほほ地元ならでのシムが構築されてるんだなと、と、ただそれだけで感銘を受ける。延命水だったか？金名水だったか？神田明神だったか？立派な鳥居と灯籠、参道も手入れされているが、場所と名前も手入されていない。すません。給水を終え、林道へ再スタート。雨は少し降り出して、カッパは着ていたものの、カッパの中は既にアドレナリンでびしょ濡れである。やはりそんな奴は、つまらぬ所の直線の轍でスッ転ぶのであった。当たったところか土だったのか？アドレナリンまみれだったのか？痛みはほぼ無く尾形さんに手伝わってもらい直ぐに再スタート。遅れを取り戻すべく、全力疾走。何とか林道の出口で到着し転倒を報告するとともに大きな損傷は無いことが確認でき雨の中煙草を吹かす。後続車が来ないしほがりは地下鉄さんだが確かにいない。しばらくすると林道出口に到着。転倒しフロントブレーキのオイルが漏れている。応急処置を皆で試したが、レバーは入力ス力。製裂は無損し隙間から漏れている。組長は決断し、水沢の町へ出てバイク屋にて部品交換修理をすることに。ただ、FM佐藤さんの集合もあるし、佐藤さんも走行中で連絡がつかないかも修理が出来ないかもしれない？そんな思いを抱きながら、三倉さんの二つに折れる（転倒して折れたわけではない）携帯でヒットしたバイク屋を目指し一路水沢市内へと向かう。出発前、携帯のマップとマップルでちらっと確認した感じでした。山を下り、橋を渡り、競馬場を横目に、市街地をすり抜け、バイク屋さんまで一度も地図を確認することなく一発で到着。スゲーと感心しかなかった。到着したバイク屋さんには、カスタムや修理がメインのお店メリカン、オフ車などなど、私には分かりませんでした。他の組員さん達は興味津々で店内をうろついていた。地下鉄さんのバイクというところ、曲損して隙間ができただけだったので、アルミのワッシャーをかましねて込んでエア抜きして修理完了。都会のバイク屋なら「部品交換しかないわね」と言われるのが落ちだが、

30分話しをしたのち、組長に目お会いしたくなり集合場所に来てしまったそうです。いろいろ乗り回している感じがしたが、エンジンからは酷くカタカタ音が鳴り響き、オイルはダダ漏れ、エンジンマウントのボルトが1本無く、17万キロも走っている強者である。にわか整備士の私でさえも整備したくなる可哀そうなバイクでありました。なんだかんだ話しをしていて、組長のバイクがバンクして遅れますとの連絡。まあ、組長のバンク修理なんてすぐだから！と、話も尽きた頃遅れること早や1時間。結局地元のパハ乗りの方は待ち切れずに帰宅、空いてしまったようです。タイヤチューブと地図と嫁さんは新しいものが持ってきたツーリングマップルは97年と書いてあった。

闊歩するのであります。買い出しを済ませ、15時頃スーパーを出発！と思いきや、ゴ三浦さんザツクを背負わずバイクに乗車。うっかり忘れるところでした。いつものようにどこを走っているのかわからぬまま、黄金に色づいた田園風景の中を荷物満載したバイクの列は快走し、山間部へ入っていく。16時過ぎ林道の大きな鉄塔の下にあるちよぎ林道の大きな鉄塔の下にあるちよぎ。ちなみに、組長は昨日もこの野営地としており、他の場所は今回の台風や林道整備に予算を回せない岩手県情勢のためか、道が荒れてしまい今回は断念したそうです。到着後、各組員それぞれ荷物と荷物を解き、雨天予報に備えテントを車座に配置し、雨でも寝可能なタープを考慮した陣形となり準備は完了。雨が降り出しても、タープがあれば宴が出来る！これが寺崎組である。いつものようにみんな乾杯、野営地への挨拶を済ませ、つまみかじゅへのご挨拶を済ませ、楽しい宴の時間が始まり、盛り上がる。すると、予報通り、ポツリポツリと落ちてきた長い木の枝を柱にして、柱の先端にはシートに穴が空かないよう、空缶を刺し屋根の完成。何事も無かったかのように宴は完成の中再開する。そしてこれもいつものように、眠くなったら寝る人、お腹がすいたら食べる人、歌いたい人は歌う人、飲みたい人はとことん飲む人、自分だけが特に強制することもなく、集団がやりたいことをやれてしまう集団、それが寺崎組である。実に面白い。その日は眠かった。途中退席し寝る人になりました。翌朝、雨は小雨になっていったが、シート屋根の下で朝飯とパッキングを濡れることな朝の行はは屋根から離れた場所へ各々転々と傘とスコップを持ち、カッパを着て、散っていくのであった。

二日目の行程は、FM佐藤さんと合流する目指し、集合場所のスキー場を調達し長距離移動で遠野へ向かう予定。みな準備は整い、雨装備で出発する。濡れた林道・轍・水溜りに気を配りながら前進する。去年の岩手と比べれば雲泥の差！レイド号に改めて感謝し、走りながら自然とヘルメットの中で笑顔になり、なんか喋っていた。今思うと、アドレナリンがダダ漏れしていたようにある。そんな中、着々と高さを上げると視界が急に開け山の頂上上がった。すぐに下りが来るのか？と身構えていると、そこはなだらかなほぼ直線の尾根道となっていた。林道の両サイドには前沢牛運の広大な放牧地となり、左右の眺望がすばらしい気持ちのいい林道です。ダート終点の眺めのいいところで、ちょっと休憩。もう少し天気が良ければ、十分景色は良かったのでわがままは言いません。

mほど先にある湧水場所へ向かって行った。ほほほ地元ならでのシムが構築されてるんだなと、と、ただそれだけで感銘を受ける。延命水だったか？金名水だったか？神田明神だったか？立派な鳥居と灯籠、参道も手入れされているが、場所と名前も手入されていない。すません。給水を終え、林道へ再スタート。雨は少し降り出して、カッパは着ていたものの、カッパの中は既にアドレナリンでびしょ濡れである。やはりそんな奴は、つまらぬ所の直線の轍でスッ転ぶのであった。当たったところか土だったのか？アドレナリンまみれだったのか？痛みはほぼ無く尾形さんに手伝わってもらい直ぐに再スタート。遅れを取り戻すべく、全力疾走。何とか林道の出口で到着し転倒を報告するとともに大きな損傷は無いことが確認でき雨の中煙草を吹かす。後続車が来ないしほがりは地下鉄さんだが確かにいない。しばらくすると林道出口に到着。転倒しフロントブレーキのオイルが漏れている。応急処置を皆で試したが、レバーは入力ス力。製裂は無損し隙間から漏れている。組長は決断し、水沢の町へ出てバイク屋にて部品交換修理をすることに。ただ、FM佐藤さんの集合もあるし、佐藤さんも走行中で連絡がつかないかも修理が出来ないかもしれない？そんな思いを抱きながら、三倉さんの二つに折れる（転倒して折れたわけではない）携帯でヒットしたバイク屋を目指し一路水沢市内へと向かう。出発前、携帯のマップとマップルでちらっと確認した感じでした。山を下り、橋を渡り、競馬場を横目に、市街地をすり抜け、バイク屋さんまで一度も地図を確認することなく一発で到着。スゲーと感心しかなかった。到着したバイク屋さんには、カスタムや修理がメインのお店メリカン、オフ車などなど、私には分かりませんでした。他の組員さん達は興味津々で店内をうろついていた。地下鉄さんのバイクというところ、曲損して隙間ができただけだったので、アルミのワッシャーをかましねて込んでエア抜きして修理完了。都会のバイク屋なら「部品交換しかないわね」と言われるのが落ちだが、

ワッシャーがままして直してしまい、旅人にとってはとてもありがたい、良心的なバイク屋さんでございました。修理は意外と早くに済んだため、集合場所に変更せずにとも来た道を戻り山に入る。途中の東屋にて昼食をとり集合場所の遠野へ向かう。ダートは時間の都合上キャンセルし遠野の田園地帯を気持ちよく流す。連休中を通りすぎる各村々では秋祭りが開かれ、見たことも無い衣装や獅子舞のような恰好をしている人々で活気に溢れていた。私たちに手を振ってきた人もいたので、向こうもこんな恰好をしたバイク乗りを珍しく思ったのであろうと、手を振り返す。お祭り姿の女の子もめんなかった。お祭りから出てきた怪しげなバイクを発見FM佐藤さんと合流し、ちよぎ林道へ入ると、遠野の市街地に入りGSから出てきた怪しげなバイクを発見FM佐藤さんと合流し、ちよぎ林道へ入ると、遠野の市街地へ8人となった車団は河童湖の近くを通りいざ山の中へ！

30分話しをしたのち、組長に目お会いしたくなり集合場所に来てしまったそうです。いろいろ乗り回している感じがしたが、エンジンからは酷くカタカタ音が鳴り響き、オイルはダダ漏れ、エンジンマウントのボルトが1本無く、17万キロも走っている強者である。にわか整備士の私でさえも整備したくなる可哀そうなバイクでありました。なんだかんだ話しをしていて、組長のバイクがバンクして遅れますとの連絡。まあ、組長のバンク修理なんてすぐだから！と、話も尽きた頃遅れること早や1時間。結局地元のパハ乗りの方は待ち切れずに帰宅、空いてしまったようです。タイヤチューブと地図と嫁さんは新しいものが持ってきたツーリングマップルは97年と書いてあった。

闊歩するのであります。買い出しを済ませ、15時頃スーパーを出発！と思いきや、ゴ三浦さんザツクを背負わずバイクに乗車。うっかり忘れるところでした。いつものようにどこを走っているのかわからぬまま、黄金に色づいた田園風景の中を荷物満載したバイクの列は快走し、山間部へ入っていく。16時過ぎ林道の大きな鉄塔の下にあるちよぎ林道の大きな鉄塔の下にあるちよぎ。ちなみに、組長は昨日もこの野営地としており、他の場所は今回の台風や林道整備に予算を回せない岩手県情勢のためか、道が荒れてしまい今回は断念したそうです。到着後、各組員それぞれ荷物と荷物を解き、雨天予報に備えテントを車座に配置し、雨でも寝可能なタープを考慮した陣形となり準備は完了。雨が降り出しても、タープがあれば宴が出来る！これが寺崎組である。いつものようにみんな乾杯、野営地への挨拶を済ませ、つまみかじゅへのご挨拶を済ませ、楽しい宴の時間が始まり、盛り上がる。すると、予報通り、ポツリポツリと落ちてきた長い木の枝を柱にして、柱の先端にはシートに穴が空かないよう、空缶を刺し屋根の完成。何事も無かったかのように宴は完成の中再開する。そしてこれもいつものように、眠くなったら寝る人、お腹がすいたら食べる人、歌いたい人は歌う人、飲みたい人はとことん飲む人、自分だけが特に強制することもなく、集団がやりたいことをやれてしまう集団、それが寺崎組である。実に面白い。その日は眠かった。途中退席し寝る人になりました。翌朝、雨は小雨になっていったが、シート屋根の下で朝飯とパッキングを濡れることな朝の行はは屋根から離れた場所へ各々転々と傘とスコップを持ち、カッパを着て、散っていくのであった。

二日目の行程は、FM佐藤さんと合流する目指し、集合場所のスキー場を調達し長距離移動で遠野へ向かう予定。みな準備は整い、雨装備で出発する。濡れた林道・轍・水溜りに気を配りながら前進する。去年の岩手と比べれば雲泥の差！レイド号に改めて感謝し、走りながら自然とヘルメットの中で笑顔になり、なんか喋っていた。今思うと、アドレナリンがダダ漏れしていたようにある。そんな中、着々と高さを上げると視界が急に開け山の頂上上がった。すぐに下りが来るのか？と身構えていると、そこはなだらかなほぼ直線の尾根道となっていた。林道の両サイドには前沢牛運の広大な放牧地となり、左右の眺望がすばらしい気持ちのいい林道です。ダート終点の眺めのいいところで、ちょっと休憩。もう少し天気が良ければ、十分景色は良かったのでわがままは言いません。

mほど先にある湧水場所へ向かって行った。ほほほ地元ならでのシムが構築されてるんだなと、と、ただそれだけで感銘を受ける。延命水だったか？金名水だったか？神田明神だったか？立派な鳥居と灯籠、参道も手入れされているが、場所と名前も手入されていない。すません。給水を終え、林道へ再スタート。雨は少し降り出して、カッパは着ていたものの、カッパの中は既にアドレナリンでびしょ濡れである。やはりそんな奴は、つまらぬ所の直線の轍でスッ転ぶのであった。当たったところか土だったのか？アドレナリンまみれだったのか？痛みはほぼ無く尾形さんに手伝わってもらい直ぐに再スタート。遅れを取り戻すべく、全力疾走。何とか林道の出口で到着し転倒を報告するとともに大きな損傷は無いことが確認でき雨の中煙草を吹かす。後続車が来ないしほがりは地下鉄さんだが確かにいない。しばらくすると林道出口に到着。転倒しフロントブレーキのオイルが漏れている。応急処置を皆で試したが、レバーは入力ス力。製裂は無損し隙間から漏れている。組長は決断し、水沢の町へ出てバイク屋にて部品交換修理をすることに。ただ、FM佐藤さんの集合もあるし、佐藤さんも走行中で連絡がつかないかも修理が出来ないかもしれない？そんな思いを抱きながら、三倉さんの二つに折れる（転倒して折れたわけではない）携帯でヒットしたバイク屋を目指し一路水沢市内へと向かう。出発前、携帯のマップとマップルでちらっと確認した感じでした。山を下り、橋を渡り、競馬場を横目に、市街地をすり抜け、バイク屋さんまで一度も地図を確認することなく一発で到着。スゲーと感心しかなかった。到着したバイク屋さんには、カスタムや修理がメインのお店メリカン、オフ車などなど、私には分かりませんでした。他の組員さん達は興味津々で店内をうろついていた。地下鉄さんのバイクというところ、曲損して隙間ができただけだったので、アルミのワッシャーをかましねて込んでエア抜きして修理完了。都会のバイク屋なら「部品交換しかないわね」と言われるのが落ちだが、

ワッシャーがままして直してしまい、旅人にとってはとてもありがたい、良心的なバイク屋さんでございました。修理は意外と早くに済んだため、集合場所に変更せずにとも来た道を戻り山に入る。途中の東屋にて昼食をとり集合場所の遠野へ向かう。ダートは時間の都合上キャンセルし遠野の田園地帯を気持ちよく流す。連休中を通りすぎる各村々では秋祭りが開かれ、見たことも無い衣装や獅子舞のような恰好をしている人々で活気に溢れていた。私たちに手を振ってきた人もいたので、向こうもこんな恰好をしたバイク乗りを珍しく思ったのであろうと、手を振り返す。お祭り姿の女の子もめんなかった。お祭りから出てきた怪しげなバイクを発見FM佐藤さんと合流し、ちよぎ林道へ入ると、遠野の市街地に入りGSから出てきた怪しげなバイクを発見FM佐藤さんと合流し、ちよぎ林道へ入ると、遠野の市街地へ8人となった車団は河童湖の近くを通りいざ山の中へ！

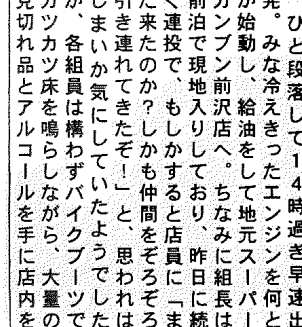
30分話しをしたのち、組長に目お会いしたくなり集合場所に来てしまったそうです。いろいろ乗り回している感じがしたが、エンジンからは酷くカタカタ音が鳴り響き、オイルはダダ漏れ、エンジンマウントのボルトが1本無く、17万キロも走っている強者である。にわか整備士の私でさえも整備したくなる可哀そうなバイクでありました。なんだかんだ話しをしていて、組長のバイクがバンクして遅れますとの連絡。まあ、組長のバンク修理なんてすぐだから！と、話も尽きた頃遅れること早や1時間。結局地元のパハ乗りの方は待ち切れずに帰宅、空いてしまったようです。タイヤチューブと地図と嫁さんは新しいものが持ってきたツーリングマップルは97年と書いてあった。

闊歩するのであります。買い出しを済ませ、15時頃スーパーを出発！と思いきや、ゴ三浦さんザツクを背負わずバイクに乗車。うっかり忘れるところでした。いつものようにどこを走っているのかわからぬまま、黄金に色づいた田園風景の中を荷物満載したバイクの列は快走し、山間部へ入っていく。16時過ぎ林道の大きな鉄塔の下にあるちよぎ林道の大きな鉄塔の下にあるちよぎ。ちなみに、組長は昨日もこの野営地としており、他の場所は今回の台風や林道整備に予算を回せない岩手県情勢のためか、道が荒れてしまい今回は断念したそうです。到着後、各組員それぞれ荷物と荷物を解き、雨天予報に備えテントを車座に配置し、雨でも寝可能なタープを考慮した陣形となり準備は完了。雨が降り出しても、タープがあれば宴が出来る！これが寺崎組である。いつものようにみんな乾杯、野営地への挨拶を済ませ、つまみかじゅへのご挨拶を済ませ、楽しい宴の時間が始まり、盛り上がる。すると、予報通り、ポツリポツリと落ちてきた長い木の枝を柱にして、柱の先端にはシートに穴が空かないよう、空缶を刺し屋根の完成。何事も無かったかのように宴は完成の中再開する。そしてこれもいつものように、眠くなったら寝る人、お腹がすいたら食べる人、歌いたい人は歌う人、飲みたい人はとことん飲む人、自分だけが特に強制することもなく、集団がやりたいことをやれてしまう集団、それが寺崎組である。実に面白い。その日は眠かった。途中退席し寝る人になりました。翌朝、雨は小雨になっていったが、シート屋根の下で朝飯とパッキングを濡れることな朝の行はは屋根から離れた場所へ各々転々と傘とスコップを持ち、カッパを着て、散っていくのであった。

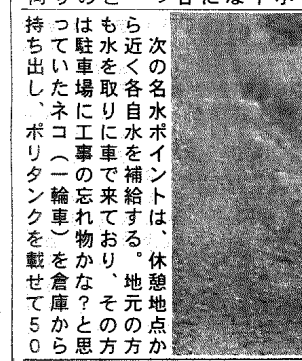
二日目の行程は、FM佐藤さんと合流する目指し、集合場所のスキー場を調達し長距離移動で遠野へ向かう予定。みな準備は整い、雨装備で出発する。濡れた林道・轍・水溜りに気を配りながら前進する。去年の岩手と比べれば雲泥の差！レイド号に改めて感謝し、走りながら自然とヘルメットの中で笑顔になり、なんか喋っていた。今思うと、アドレナリンがダダ漏れしていたようにある。そんな中、着々と高さを上げると視界が急に開け山の頂上上がった。すぐに下りが来るのか？と身構えていると、そこはなだらかなほぼ直線の尾根道となっていた。林道の両サイドには前沢牛運の広大な放牧地となり、左右の眺望がすばらしい気持ちのいい林道です。ダート終点の眺めのいいところで、ちょっと休憩。もう少し天気が良ければ、十分景色は良かったのでわがままは言いません。

mほど先にある湧水場所へ向かって行った。ほほほ地元ならでのシムが構築されてるんだなと、と、ただそれだけで感銘を受ける。延命水だったか？金名水だったか？神田明神だったか？立派な鳥居と灯籠、参道も手入れされているが、場所と名前も手入されていない。すません。給水を終え、林道へ再スタート。雨は少し降り出して、カッパは着ていたものの、カッパの中は既にアドレナリンでびしょ濡れである。やはりそんな奴は、つまらぬ所の直線の轍でスッ転ぶのであった。当たったところか土だったのか？アドレナリンまみれだったのか？痛みはほぼ無く尾形さんに手伝わってもらい直ぐに再スタート。遅れを取り戻すべく、全力疾走。何とか林道の出口で到着し転倒を報告するとともに大きな損傷は無いことが確認でき雨の中煙草を吹かす。後続車が来ないしほがりは地下鉄さんだが確かにいない。しばらくすると林道出口に到着。転倒しフロントブレーキのオイルが漏れている。応急処置を皆で試したが、レバーは入力ス力。製裂は無損し隙間から漏れている。組長は決断し、水沢の町へ出てバイク屋にて部品交換修理をすることに。ただ、FM佐藤さんの集合もあるし、佐藤さんも走行中で連絡がつかないかも修理が出来ないかもしれない？そんな思いを抱きながら、三倉さんの二つに折れる（転倒して折れたわけではない）携帯でヒットしたバイク屋を目指し一路水沢市内へと向かう。出発前、携帯のマップとマップルでちらっと確認した感じでした。山を下り、橋を渡り、競馬場を横目に、市街地をすり抜け、バイク屋さんまで一度も地図を確認することなく一発で到着。スゲーと感心しかなかった。到着したバイク屋さんには、カスタムや修理がメインのお店メリカン、オフ車などなど、私には分かりませんでした。他の組員さん達は興味津々で店内をうろついていた。地下鉄さんのバイクというところ、曲損して隙間ができただけだったので、アルミのワッシャーをかましねて込んでエア抜きして修理完了。都会のバイク屋なら「部品交換しかないわね」と言われるのが落ちだが、

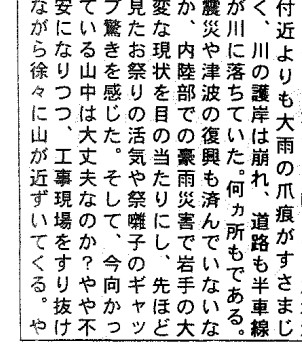
ワッシャーがままして直してしまい、旅人にとってはとてもありがたい、良心的なバイク屋さんでございました。修理は意外と早くに済んだため、集合場所に変更せずにとも来た道を戻り山に入る。途中の東屋にて昼食をとり集合場所の遠野へ向かう。ダートは時間の都合上キャンセルし遠野の田園地帯を気持ちよく流す。連休中を通りすぎる各村々では秋祭りが開かれ、見たことも無い衣装や獅子舞のような恰好をしている人々で活気に溢れていた。私たちに手を振ってきた人もいたので、向こうもこんな恰好をしたバイク乗りを珍しく思ったのであろうと、手を振り返す。お祭り姿の女の子もめんなかった。お祭りから出てきた怪しげなバイクを発見FM佐藤さんと合流し、ちよぎ林道へ入ると、遠野の市街地に入りGSから出てきた怪しげなバイクを発見FM佐藤さんと合流し、ちよぎ林道へ入ると、遠野の市街地へ8人となった車団は河童湖の近くを通りいざ山の中へ！



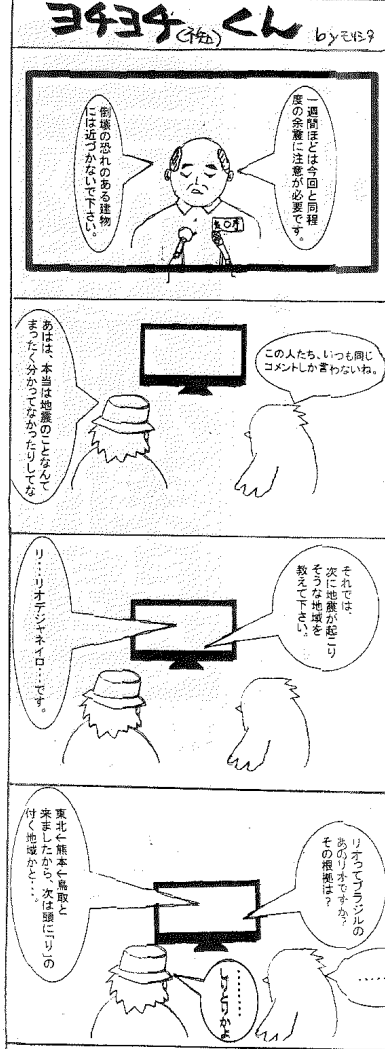
バイクの走行中



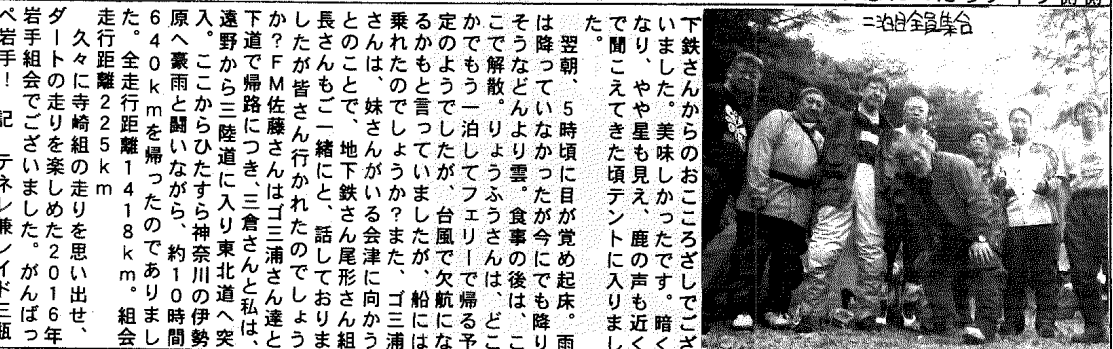
バイクの走行中



バイクの走行中



がて舗装路からダートになる。山側からは川へ雨れ、舗装路ではカラコロンが置いてあつた。山の崩れは崩れているだけ。油断するとタイプである。途中、大きく山側から木と土が崩れている箇所が出てきた。先道がOKなのを確認し前進。組長は簡単に抜けてしまふが、急に出たトラアルセクションに息を整え何とか通過。抜けたと安堵すると、雨で形成された深い轍が私を呼ぶ。入る。出る。入る。次は岩が崩れたセクションを何とかクリア！さあ次は何だ？なんて出だした頃、またアフレナリンが出た！道幅いっぱい10mほど陸上くまいて深いトラアルセクションとなつて来た。アウツ！さすがにパイプも汚れていたが、風呂に入らなければいけず、ここで敢え無くクニタイン。しかし、TTRなので苦ではない。また、下りのトラアルセクションへ向かう。



前沢組会 二泊三日集結

さて、組長は野営地を探して脇道を行ったりきたりして舗装路まで戻ってきたが、やはり匂いがしたのか？何か手が招きかけたか？1本の伐採作業道の急登に突っ込む。みな後を追う。すると、伐採した丸木の山になり、先を行く組員達が、喧嘩に反対の山の林道を走っているのが見える。見晴らしの良い林道で気持ち良かった。するとまた、トライアルセクション出現。木が伐採されているため、転ぶと谷へ急降下してしまふ。ハラハラするけど何かかものすごく楽しく面白。すると山の頂付近に広場が現れ、今夜はここを野営地とする。雨はいつの間にか止んでおり、寝はスタートしたが、いつもと違う豪華なものが回つてきた。寿司である！むむ！これは、地下鉄さんからおこるさまでございませう。美味しかったです。暗くなり、やや星も見え、鹿の声も近くで聞こえてきた頃テントに入りませう。

翌朝、5時頃に目が覚め起床。雨は降っていませんが今にも降りそうなどより雲。食事の後は、ここで解散。りようふうさんは、どこかもう一泊してフェリーで帰る予定のようでしたが、台風で欠航になるかもと言っていました。船には乗れたのでしょうか？また、ゴ三浦さんは、妹さんがいる会津に向かうとのこと。地下鉄さん尾形さん組長さんご一緒にと、話しておりました。F.M佐藤さんは「三浦さん達と下野から三陸道に入り東北道へ突入。ここからひたすら神奈川の伊勢原へ豪雨と闘いながら、約10時間640kmを帰ったのであります。全走行距離1418km。組会走行距離225km。久々に寺崎組の走りを思い出せ、グループ会をさしあげました。がんばってテネレ兼レイド三瓶

前沢組会 一人一言  
●3日目、阿原山牧場の東屋を独り占め泊、雲海と控えめな夜景がきれいでした。牛たちは草をたらふく食べ幸せそうでした。(りようふう) ●今回、下手な運転でバイクを壊し皆様に迷惑かけたことを深くお詫び申し上げます。申し訳ございません。今後このような事が無いよう精進いたします。(本当か？)(地下鉄)

寺崎組 廃道・廃墟 廃集落分科会 オフ会報告 (年がらぎです)  
そんな高地地区への入口でもある二重地区北村を県道393号線に右折し一路高地へ。県道とは違って対向車がなかったアウトな1本道です。そのバハはブイブイ進みます。2週間ほど前に下見したときは、台風の影響の土砂崩落で通行止めだった場所も簡易復旧されており、やっと思

記 226号 ひらりん  
思ひ出のヤルム 塾・寺崎組の深層  
地下 明日の朝、寺崎組のメンバーが、  
ゴニゴニと歩いている。お、お、お、  
寺崎組のメンバーが、お、お、お、  
寺崎組のメンバーが、お、お、お、